

# TSUKU COMM

〔ツクコム〕

TSUKUBA COMMUNICATIONS 2017 ▶▶

WINTER  
Vol. 34



筑波大学  
University of Tsukuba









## 目次

- 04 聴／片平 克弘 教授
- 10 TSUKUBA OBOG／大西 泰斗 氏
- 12 附属学校の名物先生登場／  
青松 利明 教諭（附属視覚特別支援学校）
- 14 躍動する！筑波大生
- 16 Homeland／伍 哲緯さん
- 18 TOPICS
- 21 受賞 Awards and Prizes
- 22 紫峰会基金・筑波大学校友会
- 23 茗溪会
- 24 ツクバでツナがるリレーエッセイ
- 26 Media Appearances
- 27 Event Calendar

○今号の写真撮影協力：サイバニクス研究センター

- 表紙  
ロボットスーツHAL





片平 克弘 教授  
(人間系)

PROFILE

- 昭和 31年 宮城県生まれ
- 昭和 54年 筑波大学第一学群自然学類化学専攻卒業
- 昭和 55年 調布学園調布中学高等学校教諭
- 昭和 61年 筑波大学大学院修士課程教育研究科教科教育専攻修了(教育学修士)
- 平成 元年 筑波大学大学院博士課程教育学研究科学校教育学専攻退学(昭和63年 教育学修士)  
鳴門教育大学学校教育学部助手
- 平成 5年 放送教育開発センター研究開発部助教授
- 平成 7年 埼玉大学教育学部助教授
- 平成 17年 埼玉大学教育学部教授
- 平成 20年 筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授
- 平成 24年 筑波大学人間系教授 博士(教育学)
- 平成 26年 筑波大学附属小学校長





# ともに学ぶよろこび

## 人がつくる教育の神髄を求めて

得意な教科と苦手な教科—学校での勉強の好き嫌いは、往々にしてその教科を教えてくれる先生によって決まるものです。教え方や接し方には相性があり、自分にとっての「良い先生」との出会いは、学びの対象への興味関心を広げるきっかけになります。どの先生も、より良い教育のために様々な試行錯誤をしていますが、教室全体に常に目を配るのは大変です。子どもたちの学びの実相を捉え、力を伸ばすための支援の方法を、メタ視点から探ります。

### ■ 人が教育を変える

学校教育、とりわけ初等・中等教育は、子どもたちのその後の人生に大きな影響を与える重要な学びの場です。その中で教師の果たす役割は、勉強を教えるだけにとどまらず、生活態度や集団行動の指導など多岐にわたります。大勢の子どもと接しながら、その一人ひとりとの関係も構築しなくてはなりません。生徒は、好きな先生が教えてくれる教科は好きになります。同じことを学ぶにしても、誰がどのように教えるかによって、結果は大きく異なるわけです。これが教師のやりがいにつながります。

自分自身も、小・中・高校のそれぞれで、理科の先生に恵まれました。好きな先生、頼れる先生だったからこそ、疑問や質問も積極的に投げかけることができました。そのような学びの経験が、後の進路を考える上で大きく影響したのです。

教育が人を変える、とよくいわれます。しかし現実には、家庭や学校でどんな人に出会うかによって、そもそも教育の前提が変わってしまいます。環境や施設を整えることももちろん重要ですが、学ぶ意欲をかきたててくれるのはやはり、人。そう考えると、人が教育を変える、という側面もまた真だといえるでしょう。教師の責任はますます重大です。

### ■ 授業者から授業の観察者へ

両親、祖父も学校の先生という家庭で育ちました。就学前から母親が教鞭をとる小学校で多くの時間を過ごし、自らも教育者の道を選んだのは、ごく自然な流れでした。教員免許を取得してすぐに、中学・高校の理科教員として教師生活をスタートしました。各学年の授業を受け持ち、クラス担任も務め、教えることに対する誇りも持てるようになりましたが、その一方で、学

校の仕事に携わる中には、校則違反を犯した生徒や不登校の生徒への対応などもありました。生徒の家を何度も訪ねたり、他の生徒たちにも協力を仰いだりしながら、なんとか対処したものの、それらの経験は、教職課程で学んだこととはかけ離れており、若い教師の心にとっても重くのしかかったのです。

教科を教えることへの情熱は変わりませんでした。それ以外の部分で、生徒の一生を左右するような場面に関わるには力が足りないことを痛感し、教育についてもっと深く学ぼうと、大学院に戻ることを決心しました。

それ以来、取り組んできたのは、現場の教育を基礎づける理論の研究です。より良い授業を目指して、教師たち自身も学び、様々な工夫を凝らしていますが、思うようにいかないこともしばしば。どうしても、日々の授業に追われてしまい、ひとつひとつの授業や活動が、教科や単元の中でどのよう



な位置付けにあるのか、本来の学習の全体像を見失ってしまいがちです。研究者として、教師が与える課題や教材に対して生徒はどのように反応し、変化するか、それを見極めようとしています。

こういった研究には、エスノメソドロジ的な手法(集団内の秩序が生成していくプロセスを分析する)を用います。教育は人間を対象にしますから、いわゆる「実験」をすることはできません。教育現場で行われる事例を積み重ね、その中から何らかの傾向を見出し、最善の方法を探ります。授業を実施している教師自身が、同時に個々の生徒を観察することは困難なので、第三者である研究者が教室全体をメタ認知的に捉える役割を担います。あたかも透明人間のように授業環境の中に身を置き、授業の様子を客観的に観察し、分析します。生徒同士のコミュニケーションなど、授業者の目の届きにくい教室内の動きも細かく

チェックすると、授業の本当の効果が見えてきます。

## ■理科教育の魅力

授業の資料や教材が詰まったカートを引いて通勤するのが日課です。特に使う予定がなくても、いつも手元に置いておきたいと、毎日自宅へ持ち帰ります。それほど思い入れがあるのが教材。特に理科は、実験や観察などの活動が重要な位置を占める教科です。効果的な学習には、教材の工夫が欠かせません。だからといって、導入からいきなり理科室にあるような完成された実験器具に触れさせるのではなく、まず、理科の世界に入っていくための扉を開かせるものが重要です。それには、身近にある材料や道具を活用したり、遊びの要素も取り入れた様々なツールを提示し、その中から子どもたちの興味や好奇心を引き出すものを探ります。それをも

とに、学びの段階に応じて、教材も発展させていきます。

日常的に情報過多な環境で生活している子どもたちに対して、集中できる適当な教材を見つけることはなかなか大変です。教材を考えることは、理科教育の大きな魅力のひとつです。しかし、教師が考え抜いて用意した教材が、必ずしも意図した通りの効果を発揮しないこともあります。授業を客観的に観察していると、子どもたちが実際にどんなふうに教材を使っているか、どんなところでつまづいてしまうのかが明らかになり、教材のデザインや使い方についても、改めて見直すことができます。

## ■教育的タクト

そのようにして授業を観察した結果は、教師にフィードバックし、その後の授業に生かされます。けれども、クラスごとの性格も異なりますし、教





師自身のコンディションや、教室の環境も絶えず変化します。褒めたり叱ったりという声掛けも、対象の生徒本人だけでなく、周りの生徒への影響も含めて考えなければなりません。授業のやり方に普遍的な最適解は存在せず、同じ授業内容でも、いつも同じように進められるわけではないのです。その場の状況を瞬時に判断し、適切にアジャストして、より良い授業に導くことが求められます。

この、アジャストするということところが、教師の腕の見せ所。いろいろなアイデアを駆使して、オーケストラの指揮者がタクトを振って調和のとれた音楽を奏できるように、教師の采配を通して生徒とともに授業を作り上げる、つまり、教育におけるタクトさばきが授業の成否を決めるのです。生徒が変われば、当然、タクトの振り方も変えることが必要です。

ただし、オーケストラと違って、授業は生徒を相手に練習することがで

きませんから、現場で試行錯誤を繰り返しながら、その時々状況に応じた巧みなタクトさばきを身につけ、常に授業を改善していくことになります。それには、自分の知識や体験を活用しながら教師としての経験を積み、タクトを振る技をたくさん習得し、かつ、その技を適切に使い分けることが大切です。授業観察者、すなわち教育研究者の眼は、タクトを振る技の幅やその使い方を広げるための特別な視力を持っていなければなりません。

## ■開かれた校長室

附属小学校の校長として、週に2日は校長室で過ごします。校長室というと、特別な時に緊張しながら行く場所、というイメージもありますが、この校長室には、休み時間になると、学年もクラスも関係なく、子どもたちが自由に入ります。先々代の校長が開放して以来、校長室は子どもたちの

憩いの場。校長先生とおしゃべりをしたり、ぬり絵などをして遊んでいきます。普段の教室にいるときは別の姿も見せてくれます。

これには、保健室や図書室のような、子どもにとってのある種の隠れ家的な意味もあります。一見、どの子どもも明るく快活ですが、教科担任制の附属小学校では、たくさんの教師と関わりますし、6年間でクラス替えは1度だけ。また、運動会などでは明確に順位をつけ、授業でも課外活動でも真剣勝負をする校風です。そのため、人間関係に悩んだり、ストレスを抱えている子どもも珍しくありません。校長室は、そういった子どもたちが、教室以外で気兼ねなく長居できる場所でもあるのです。

どんなに忙しくても、子どもたちがやってくれば、仕事の手を止め、彼らの話に耳を傾け、一緒に遊びます。日ごろから、子どもたちの気を惹きそうなガジェットを集めておくことも







心がけています。

校長室にはノートがあって、訪れた子どもたちがそれぞれ自分のページ（マイページ）に、日記代わりにメモを残したり、好きなシールを貼ったりしていきます。

校内を歩いていれば、子どもたちがいつでも手を振り駆け寄ってくるのも、この親しみやすい校長室の延長でしょう。

## ■ともに学ぶ教育に向かって

教えたい、という一心だった教師時代から、研究者として教師や子どもたちを支援する立場になり、教育に対する考え方も少しずつ変わってきました。近年、アクティブラーニングなど「協同の学び」が注目されています。しかし、単にみんなで実験や観察をすれば自動的に学びが生まれるわけではありません。同じ課題を共有し、考える中から何かを得ることが重要です。

みんなで活動する前後に、一人でじっくり考えたり振り返ることがあって初めて、協同することの意義が現れます。見かけは一人ずつバラバラに考察しているようでも、その時間をとも

に過ごす、そしてその場に教師も一緒にいることが、いちばんの支えになるのです。

これは大学のゼミでも同じです。課題はより高度になり、明確な答えが見つからないことも増えます。そんな時には沈黙が流れます。これがまさに協同の学びの時間。学生・院生にとってはつらい時間かもしれませんが、その中でともに逍遥し、答えを導き出すことが大切だと感じています。

学習者の能力を少しずつ高いレベルへと引き上げるための足場をかけてあげるのが教師の役目ですが、もっと大事なのは、その足場を適切なタイミングで外すこと。足場をきちんと取り除かなければ、建物は完成しません。子どもに限らず、あるところまで到達したらそれ以上の助けは得られない状況を作り、学びの責任を本人に移譲すること、これによって人は自立した学習者へと成長していきます。







ゼミでの沈黙の時間は、学生・院生を突き放し、自分で進むべき方向を見出すよう促す瞬間でもあります。ともに学ぶ教育の楽しさをかみしめつつ、優しさの中にも厳しさのある眼差しで、学ぶ者たちの成長を見守ります。



下校する子どもたちを見送る算数科の田中先生



//////// TSUKUBA //////////

## OBOG

東洋学園大学の教授として教鞭をとる傍ら、30冊を超える著書を出版し、NHK Eテレ「しごとの基礎英語」の講師としても活躍中の大西泰斗さん。全国各地の講演会は高校生から80代の英語学習者、指導者で満席となります。精力的に英語教育に携わる大西さんに、ご自身の「学び」についてお話を伺いました。

### — 大西さんは筑波大学5期生です。今でも鮮明に思い出すような学生時代のエピソードはありますか？

高校の教員を目指していたので、師範学校の伝統を受け継ぐ筑波大学へ意気揚々と入学したわけですが、とにかく僕は貧乏な学生で、風呂代を節約しようとトレーニング室のシャワーを使うために筋トレをしたり、アルバイトを見つける最初の夏休みまでの間に20kgも体重が減ってしまったり、入学当初はほろ苦い思い出ばかりですね。

アルバイトは「筑波インターナショナルセンター」という、JICA(国際協力機構)筑波の前身の農業技術研修施設で、毎週2晩ほど宿泊棟の夜間フロントをしていました。アフリカや東南アジアの研修生が暮らしやすいようにお世話をしますが、ノンネイティブの多様な英語に触れて試行錯誤したおかげで、英会話力が向上したのだと思います。

僕は学生時代に留学の経験はなくて、36、7才の時にオックスフォード大学の客員研究員になったのが初めての海外長期滞在でした。

### — どんな学生でしたか？

まあ、普通の学生でしたよ。昼休みにゲームセンターで1ゲームしてから午後

の授業に行くとか。専攻の授業はほどほどに、むしろ周りの友達が取らない他学群の科目を積極的に受講しました。体育専門学群の運動生理学や比較文化学類のギリシア哲学、英米

文学でネイティブの先生と1対1なんていう授業もありました。せっかく学費を払うのなら、広く知の世界を見たいと思っていました。

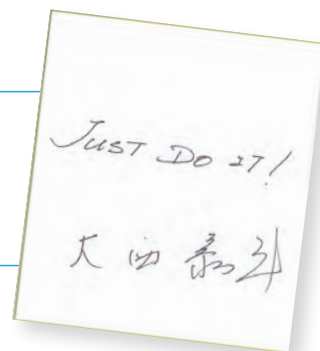
あまねく興味の赴くままに学んだ経験があったからこそ、得意なものや、興味のあることが浮かび上がってきたのかもしれない。筑波大学は当時「学際性」が際立っていて、このことはその後の僕の人生にもずいぶん役立ったと思います。ずっと目標にしていた教員採用試験に合格したのに、向学心から大学院に進学して、恩師に学び、僕の運命は変わったといえるでしょう。筑波大学でなければ、研究は続けないし、きっと本も出していない、テレビにも出ていないだろうから。

## PROFILE

## 大西 泰斗 氏

東洋学園大学教授、言語学者

1961年 埼玉県生まれ  
1984年 筑波大学第一学群人文学類卒業  
1989年 筑波大学大学院文芸言語研究科博士課程終了  
同年 東洋女子短期大学欧米文化学科専任講師  
1996年 オックスフォード大学客員研究員(～1997年)  
2000年 東洋女子短期大学欧米文化学科教授  
2003年～ NHK教育(Eテレ)「ハートで感じる英文法」ほか多数、同局で講師を歴任  
2008年 東洋学園大学教授  
HP: <http://www.englishatheart.info/>



### — 現在「しごとの基礎英語」(NHK Eテレ)では社会人を対象としています。また大学の授業、小学生向けの指導など、幅広い年齢層や学習レベルを対象に教えていらっしゃいます。それぞれにわかりやすく教える秘訣は何でしょうか？

「しごとの基礎英語」では、ビジネス英語を取り上げていますが、ビジネスについては共演のルーシーさんに任せて、僕自身は英語の文法、特に語順といった狭い話をしています。ただ、シチュエーションが旅行や自己紹介に変わろうと、語彙



「しごとの基礎英語」出演中の大西さん



や語順は本質的なことなので、狭いけれども汎用的でもあるわけです。辞書に載っている単語の意味をすべて覚える必要はありません。根本的な意味や感覚さえ理解すれば、別の熟語も理解できます。

語順も同じ。英語を話す上でネイティブの語順の感覚を身につけることです。語順と単語が正しければ多少ブローキングリッシュでも相手に通じます。そのために指導者がすべきことは『正しいのは(ア)ですか(イ)ですか』なんていう問題に時間を費やすのではなく、徹底的に声を出して英語を話させることです。口から出たことのない言葉は話せません。

ですから僕の授業では、これまでの「読解」を目標にした英文法ではなく、「会話」に特化した説明をします。そしてどんどん英文を覚えて、口に出してもらいます。楽しみながら自然に頭に入ってくるというのが、僕の考える理想の授業です。

注意を惹くために手や指をならしたり、話すテンポや声色を変えたり、受講生が集中力を保てるような工夫も大学教員になってからできるようになったと思います。

#### 一 大学教授、英語講師のほか教材出版や講演など多忙な大西さんにとって、この先のビジョンを教えてください

英語ってそんなに難しいものじゃないし、がんばって覚えるものでもないというのが20年以上英語を教え続けて思うことです。まず、この「難しい」という壁を取り払うこと、そして時間をかけすぎないことです。

高校までの学校教育において、これまでの英語は「訳す」ことが主でした。高校を卒業したら普通に海外で英語が話せるというようにこの国の学校教育を変えることが、僕の目標です。それも近い将来に。そのためには教科書に載せる文法はもっと簡略化しなくては行けないし、指導要領も変えていかなくては行けません。いまはそのために、教科書の執筆や教材開発に取り組んでいます。

#### 一 最後に、後輩へのメッセージをお願いします

僕の英語教育者としての現在の仕事は英語の知識だけに支えられているわけではありません。内容を正しく、なるべく受け手の負担にならないように伝える編集テクニックは、どんな素晴らしい英文法の古典にも載っていません。工程管理や人為ミスを防ぐための技術書は、本の構成に応用できます。専門とはかけ離れた世界に触れる、学際的な学びを継続する、そういうことが自分の専門性を社会に生かすことに繋がっていきます。

だからまず、食わず嫌いな分野の授業を受けてさまざまな領域に触れてください。そして読書によってロジカルな思考を養うことです。もうひとつ、スポーツやトレーニングで体力を培うことも大切です。20代でつけた体力や集中力はそ

の後の人生の気力に繋がります。人生には孤独に耐えてでもがんばらなければならない場面があります。仲間だとかコラボだとかばかりに血道をあげるくらいなら、トレーニングするか本を読んだ方がずっと有意義です。真の意味でクリエイティブな考えは孤独な精神にしか宿りません。孤独の価値を見極めてほしい。

大学には永久にいられるわけではありません。与えられた素晴らしい環境を生かして、貪欲に4年間を過ごしてください。それがいつか皆さんの宝物に変わるときが来るはずですよ。



2011年初版の『一億人の英文法』（東進ブックス）は「Amazon ランキング大賞2016」の本の部門で和書総合13位、英語学習2位にランクインするロングセラー





# 名物先生登場!

あおまつ としあき

## 青松 利明 教諭

筑波大学附属視覚特別支援学校

1970年 奈良県生まれ

1993年 国際基督教大学教養学部社会科学科  
卒業

1993年 日本ユニシス株式会社入社

1995年より現職

2003～2005年 筑波大学大学院教育研究科障  
害児教育専攻(内地研修により)

2008～2009年 交通エコロジー・モビリティ  
財団 視覚障害者誘導用ブロックに関する調  
査研究委員

2011～2012年 公益財団法人共用品推進機構  
「TC173SC7WG1検討委員会」委員

趣味はボーリングで、全日本視覚障害者  
ボーリング協会を立ち上げ、会長の要職を  
務めている。ただ国際会議出席など運営の  
仕事が増え、自らボールを投げる機会はめっ  
さり減ってしまっているのが残念。

本学には11の附属学校があります。  
それぞれの分野でわが国の教育をリ  
ードしており、全国でも有名な先生た  
ちが大勢います。各学校で活躍する名  
物先生を紹介いたします。

大きな発泡スチロールの箱と木製の建物模型を抱えて、青松先生が教室にやってきました。箱のふたを開けると中には国会の議場のレプリカ、木製の模型は木片を組み合わせて作った国会議事堂です。国会の仕組みについて学ぶ中学3年生の公民の授業。もう一人の先生とのチームで8人のクラスを指導します。

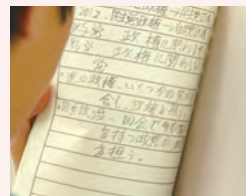
生徒たちは、通常の教科書、大きな文字の拡大教科書、点字教科書をそれぞれの視力に応じて使っており、読む速度もバラバラです。写真で見れば一瞬で理解

できることも、一人ずつじっくり模型に触って確かめたり、語句のイメージがつかめるように、キーワードに使われる漢字が、他のどのような単語に使われているかなども説明します。ですから授業の進行にはどうしても時間がかかります。青松先生は、ポイントを箇条書きにしたプリントを配り、読むための時間を節約すると同時に、ディスカッションに力点を置いています。この日はちょうど、アメリカ大統領選挙の直後。日本の政治制度や報道の在り方などとも関連付けながら、全員が発言できるように質問を投げかけ、程よい緊張感の中で、授業は進みます。

社会科の中でもとりわけ教材が少ないのが公民。青松先生は、

生徒たちに、障害者としての自覚や人権意識をしっかりと持ってもらうと、日常生活での実体験をそのまま教材にします。点字ブロックの上に自転車が置かれていて困ったこと、歩きスマホをしている人にぶつかってしまったこと、そういった身近な出来事をきっかけに、社会の仕組みを捉えます。人々は、家庭環境や経済状況など、いろいろな要因で困難を抱えています。障害があることは、それらの社会問題にも気付けるようになる入口にもなるのです。

町を歩き回って観察したり、テレビの映像で理解することが難しい生徒たち。世の中の動きを把握するには様々な工夫が欠かせません。その一つが聞き取り調査の課題です。夏休みにそれぞれの地元へ帰ると、地域の産業や歴史・文化について調べます。自分で立案し、施設や人々を







訪ね、直接、話を聞いたり体験をしてきます。特別に、貴重な文化財などに触らせてもらえることもあります。ただ見学するよりも格段にハードルの高い活動です。学校に戻ってみんなの経験を持ち寄ると、教科書よりもずっと深い学びになります。

子どもの頃の青松先生は、全学年あわせても10名ほどの小さな盲学校に通っていました。クラスで発表会があると、事前に録音しておいたものを流すぐらい引っ込み思案だったそうです。でも、いつしか、もっと広い世界を知りたいと思うようになりました。全国から生徒が集まるこの学校のことを知り、中学入学を機に親元を離れました。さらに普通高校への進学を目指しましたが、受け入れ先はなかなか見つかりません。行き詰まっていた時に、アメリカに行った先輩の話聞き、留学を決めたのです。現地の特別支援学校に行くつもりで渡米したものの、割り当てられたのは普通高校でした。視覚障害のある生徒は他にもいて、点訳の支援もありましたが、近くにある特別支援学校にも通えるというので、午前と午後に分けて、1年間、両方の学校を体験しました。周囲に日本人はいなく、インターネットもない時代。自然とコミュニケーション能力も培われました。

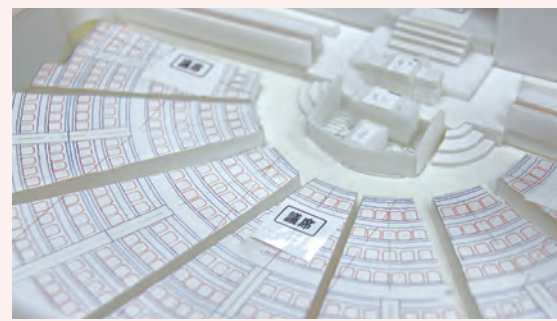
青松先生のチャレンジはまだまだ続きます。大学在学中には海外を巡り、現地

の学生と協力して貧困地域の支援などにも取り組みました。就職活動では、国際機関やマスメディアなどを志望しました。しかし当時は障害者の受け入れが進んでおらず、大学の紹介でようやく採用されたのがコンピューター会社でした。母校で社会科の教員を募集していることを知ったのは、システムエンジニアとして活躍していた頃です。進学や就職で様々な困難を乗り越えてきた体験、海外での活動や企業で働いた経験を後輩のために役立てたい、この学校でなら自分の能力を最大限に生かせると考え、教員へと転身しました。

穏やかな風貌とは裏腹に、学校では、国際交流部・フロアバレーボール部・ボウリング部と3つの部活動の顧問も務めるバイタリティーの持ち主。今、特に力を入れているのがボウリングです。全日本視覚障害者ボウリング協会の会長、国際視覚障害者スポーツ連盟のボウリング委員会の長という顔も持っています。15年ほど前、視覚障害者スポーツとして始まった頃から普及活動に関わっており、自身も世界選手権に出場するほどの腕前です。最近はなかなかプレーする時間が取れないと嘆きつつも、通勤時のウォーキングで体力を保つことは忘れません。

制度的にも技術的にも、視覚障害者のための学習環境は整ってきています。そ

の反面、移動やコミュニケーションなど、自立していろいろなことをできるように訓練し、自ら道を切り拓いて社会参加しようとする姿勢を弱めている傾向もあるようです。生徒たちには、社会に対する関心と自分で考える力を持ち、たくさんすることに挑戦して欲しい、そして、そのための手段があることを伝えたいと願っています。引っ込み思案を克服し、多くの壁を打ち破って世界を広げてきた青松先生。そのユニークな道のりこそが、何よりの教材です。



石井 裕志副校長と

本校で社会科を担当されている青松利明先生をご紹介します。御自身、本校の卒業生であり一般企業での勤務を経て本校の教員となられました。現在は主事として高等部の教員をまとめています。しかしそれ以外にも、全日本視覚障害者ボウリング協会の会長を務め大会の運営だけでなく国際会議への参加もこなし、さらには日本視覚障害社会科研究会の中心メンバーとしても精力的に活動されています。高校生の時には、アメリカの普通高校留学も経験し、これまでのキャリアは、まさにグローバルとインクルージョンを地で行っていると言えます。その経験は、後輩でもある生徒たちの教育や指導に大いに活かされています。是非、生徒たちには、この先輩に追いつき追い越して欲しいと切に願っています。





## インカレ3連覇を牽引 女子バドミントン、「真逆」のダブルス

# 躍動する!



第67回 全日本学生選手権大会バドミントン部女子団体優勝

「目指しているのは、5連覇できるチームです」、インカレ女子団体3連覇に輝いたバドミントン部に感想を訪ねると、予想外の冷静な答えが返ってきました。

3年間、すべてのインカレ団体優勝に貢献している体育専門学群3年の柏原みきさん(写真左)と加藤美幸さん(写真右)は、入学以来のダブルスのパートナーです。今年は、出場した4試合ともストレート勝ちを取めました。

3連覇について柏原さんは、昨年の経験があったからこそ、チーム全体で落ち着い

て挑めたといいます。「優勝しなければならないのではなく、優勝したいという気持ちがどんどん強くなって、勝ち上がっていくほど、これは当然の道筋だと平常心になっていました」と振り返ります。加藤さんは「4年生の集中力が高く、後輩である私たちを力強くリードしてくれたので、懸命についていきました」と、連覇を続けることで、学年を超えたチームの結束がより強くなっていると感じています。

二人は、ダブルスのパートナーであると同時に、プライベートでも仲良しの友人です。でも、お互いの性格については「いろいろ真逆」と笑います。

小さなバドミントン教室に遊びがてら参加したのをきっかけに、本格的に競技に打ち込むようになってから、これまで一度も辞めようと思ったことはないという柏原さんは、バドミントンは「私の人生そのもの」と表現します。一方、小学生のころから強豪チームに所属し、迷いながらもバドミントンとともに歩んできた加藤さんは、「シャトル、ネット、コート、そして相

手の特徴など要素が多いバドミントンは、駆け引きや戦略で勝つことができる競技。自分の良いところをどう伸ばそうか、欠点をどう補おうかと工夫できるのが魅力です」と語ります。精神力の強さと客観的な分析力、コートの中で、二人の持ち味が相乗効果を生み出しているようです。

現在バドミントン部は、関東リーグや東日本大会など含めて女子団体戦で9連勝中。チームにとっても二人にとってもライバルは大学生のみならず実業団で活躍する同世代プレイヤーです。

ダブルスペアとして日本代表にも選出された二人。最後に夢を訊ねると、答えは同じ「東京オリンピックで活躍すること!」でした。



## 競技成績・各種発表・コンテスト結果

### ■弓道部

第48回関東学生弓道選手権大会 女子 団体優勝  
[個人女子]3位 佐藤碧紀(体育1)

第40回女子東西学生弓道選抜対抗試合 東軍優勝  
[東軍前立 落前]佐藤碧紀(体育1)

### ■硬式庭球部

平成28年度関東学生テニス選手権大会  
[女子ダブルス]優勝 米原実令(体育3)、森崎可南子(体育2)

全日本大学対抗テニス王座決定試合 女子 準優勝

2016希望郷いわて国体  
[成年女子]3位 古川鈴夏(体育4)、森崎可南子(体育2)

第53回全日本学生室内テニス選手権大会

[女子ダブルス]優勝 米原実令(体育3)、森崎可南子(体育2)  
[女子シングル]3位 牛島里咲(体育2)

### ■サイクリング部

全日本自転車競技選手権大会オムニアム 女子 優勝  
梶原悠未(体育1)

### ■柔道部

2016希望郷いわて国体 成年女子の部優勝(茨城県代表)

藤原恵美(体育4)、内尾真子(体育3)、能智亜衣美(体育3)

全日本学生柔道体重別選手権大会

[男子66kg級]優勝 田川兼三(体育2)、2位 末木貴将(体育3)

[男子73kg級]優勝 竹内信康(体育4)

[男子81kg級]2位 山本幸紀(体育4)

[男子90kg級]2位 大橋賢人(体育3)

[男子100kg超級]3位 尾原琢仁(体育4)

[女子63kg級]優勝 津金恵(体育3)、3位 能智亜衣美(体育3)

講道館杯全日本柔道体重別選手権大会

[女子63kg級]優勝 能智亜衣美(体育3)、3位 津金恵(体育3)

[女子70kg級]3位 中江美裕(体育1)

### ■グランプリ青島

[男子73kg級]3位 竹内信康(体育4)

[男子66kg級]3位 田川兼三(体育2)

### ■水泳部

FINA Swimming World Cup 東京大会

[競泳男子100m背泳ぎ]2位 金子雅紀(院2)

[競泳男子200m背泳ぎ]優勝 金子雅紀(院2)

第1回関東学生<水球競技>新人戦 優勝

第10回アジア水泳選手権大会

[男子高飛込シンクロ]準優勝 大久保将(体育2)

### ■漕艇部

第39回東日本新人選手権競走大会

[女子ダブルスカル]優勝 棚橋秀美(体育2)、柴田知実(教育2)

### ■体操競技部

関東学生新人体操競技大会

[女子ゆか]優勝 宮内玲奈(体育1)





# 筑波大生

## 学生制作のラジオCM 日本最大級の広告フェスティバルで受賞!

Bayfm78で放送した「筑波大学ラジオCM それって編」が、日本最大級の広告賞「2016 56th ACC CM FESTIVAL」(一般社団法人 全日本シーエム放送連盟主催)で、ACC地域ファイナリストに選ばれました。プロがひしめく中、学生制作のラジオCMの入賞は3回連続の快挙です。

受賞したのは芸術専門学群4年の早川翔人さん、佐々木楓さん、同3年の鎌田瑞希さん、須藤諒一さん、同2年の磯部直人さん、情報学群知識情報・図書館学類3年の安東晋さんの6人が、平成27年度の自由科目「IMAGINE THE FUTURE. 未来創

造大学講座-創造学群表現学類-」で制作した作品です。第一線で活躍している本学OBクリエイターによる2日間の講義を受けたあと、受講生は「ラジオCM」「駅貼りポスター」「スマホアプリ」などのチームに分かれて約1ヵ月かけて課題に取り組み、その後プレゼンテーションを行います。制作したラジオCMやポスターは、本学のPRに使用されています。

受賞作品について早川さんは、「ボケがどんどん加速するテンポの良さと同じフレーズを繰り返す『刷り込み効果』が評価されたのでは」と振り返ります。「改めて大学を知ることができる」「他学群の学生とガチ友になれる」「現役学生時代にリアルに発信できる広告が作れる」と、受講生に大好評の自由科目「IMAGINE THE FUTURE. 未来創造大学講座-創造学群表現学類-」は平成29年度も開講予定です。現役クリエイターのレクチャーを直に受けることのできる絶好のチャンスです。興味のある方はぜひ参加してみてください!

※所属学年はすべて受講時



Bayfm78にて収録中。望月愛海さん(芸術専門学群2年)も参加

### 筑波大学ラジオCM「それって編」

男1	ひとり連れてるけど、そろそろ乾杯しちゃいますか!
男2	じゃあ、今日の出会いに〜
全員	カンパ…
つくば男	つごめん連れて〜!
男2	遅いよー!
つくば男	つくばエクスプレスなら東京までボンと行けちゃうからって余裕こいてたら実験に夢中になっちゃって。ほら、筑波大学って研究すごいじゃん?
男1	あー、もういいから。じゃあ、あらためて
全員	カンパイ!
SE	カチーン(グラスを合わせる音)
男1	まずは、女の子から自己紹介をお願いします!
男全員	イエー!
女1	えっと、みゆきです。趣味は旅行で、いろんな国に行ってます。
つくば男	みん、いろんな国の文化に触れてるなんて筑波大学みたいじゃね?
女2	かおりです。お菓子作りが好きで、フルーツタルトよくつくります。
つくば男	え、フルーツタルト?!色々な個性が、お互いを高め合うなんて、総合大学の筑波大みたい!
男2	かおりちゃんさ、前髪上げるともっとかわいくない?
女2	え〜だっておでこ広いし〜
つくば男	え、でもでも、広大な面積を誇っているなんて筑波大学だよそれ!
男1	みゆきちゃん、グラスあいてるじゃん。次何飲む?
女1	え〜次何飲むうかな〜
つくば男	次飲みたい物を考えてる。未来を創造してるってことは、IMAGINE THE FUTUREの筑波大学じゃん!
はい、サラダお待ち!	
店員	お!このサラダ、プロコロー多くてまるで森みたい!筑波大学じゃん!
つくば男	私、ピザ食べたい〜!
女1	え、このピザ安っ!298円だって!2・9・8!つくば!筑波大学じゃん!
つくば男	こちら、つくねの盛り合わせです。
店員	うわ!つくねばかり!え?つくねばっか?つくばっか?つくば!つくば!
つくば男	つくば!つくば!つくば!つくば!つくば!つくば!つくば!つくば!つくば!
女1	あ、ちょっと、お手洗い行ってくるね〜
女2	あ、私も行く〜。
女3	私も〜
女3	え、あいつやばくない?
女1	ね!あいつでしょ!やばいよね〜
女2	でもさ、他の2人の印象薄くない?
女1・3	たしかに〜
NA	記憶に残る人になる 筑波大学

※本学HPより上記ラジオCMの音声を再生することができます。  
(<http://www.tsukuba.ac.jp/about/videoclip.html>)

■ 男子バスケットボール部  
第92回関東大学バスケットボールリーグ戦 優勝  
※14年ぶり10回目の優勝

第68回全日本大学バスケットボール選手権大会 優勝  
※3年連続4回目の優勝、今季トーナメント・リーグ戦・インカレの三冠  
【最優秀選手賞】 杉浦佑成(体育3)  
【優秀選手賞】 生原秀将(体育4)  
【優秀選手賞】 馬場雄大(体育3)  
【得点王】 杉浦佑成(体育3)

■ バドミントン部  
第67回全日本学生バドミントン選手権大会  
【女子団体】 優勝 3連覇

バドミントンタイオープン2016  
【女子ダブルス】 3位 加藤美幸(体育3)、柏原みき(体育3)

■ 女子バレーボール部  
2016年度秋季関東大学リーグ 優勝  
※春秋リーグ最連覇達成、去年の春季リーグ戦から4連覇  
【最優秀選手賞】 土井さくら(体育4)

第63回秩父宮妃賜杯全日本バレーボール大学女子選手権大会 準優勝

■ 女子ハンドボール部  
平成28年度全日本学生ハンドボール選手権大会 3位  
【特別賞】 岩崎成美(体育4)

■ 陸上競技部  
日本ジュニア・ユース陸上競技選手権大会

【男子ジュニア200m】 優勝 山下潤(体育1)  
【男子ジュニア男三段跳】 優勝 平松祐司(体育2)  
【女子ジュニア100mH】 3位 佐々木天(体育1)  
【女子ジュニアハンマー投げ】 優勝 関口清乃(体育1)  
【女子ジュニア円盤投】 3位 半田水晶(体育1)  
【女子ジュニア三段跳】 2位 朝持クリア(体育1)

■ オリエンテーリング部  
第25回全日本リレーオリエンテーリング大会  
【WE(女子選手権クラス)】 2位 山岸夏希(体育2) ※埼玉県チーム  
2016年度日本学生オリエンテーリング選手権大会ロングディスタンス競技部門  
【WE(女子選手権クラス)】 2位 山岸夏希(体育2)  
第9回全日本スプリントオリエンテーリング大会  
【M20A(男子ジュニア一般クラス)】 1位 楠健志(地球2)  
【WE(女子選手権クラス)】 3位 山岸夏希(体育2)

■ 蹴球部  
第65回全日本大学サッカー選手権大会 優勝  
※13年ぶり9回目の優勝





▲唐揚げタイプ「臭豆腐」は若干、難度が低いかも



▲家庭の味「魯肉飯」



▲屋台の人気メニュー「蚵仔煎」

### 夜市のおいしいもの巡り

台北では「士林（シーリン）市場」が有名ですが、地元で人気があるのは「饒河（ラオホー）市場」です。ここでは昔ながらの台湾の味が楽しめます。まずお勧めしたいのは「蚵仔煎（オアチェン）」という台湾風のお好み焼き。新鮮なカキと片栗粉、レタスや白菜を混ぜ焼きして、トマト風味のソースをかけて食べます。

「魯肉飯（ルーローファン）」は私たちにとっては懐かしい家庭の味です。豚肉をじっくり炒めることで、肉の脂肪分が溶け出し、味噌や醤油をベースにしたタレとしっかり絡み合います。白飯によく合うのでついつい食べすぎてしまいますが、中性脂肪が高くて血管にはあまりよくないので注意してくださいね。

もう一つ忘れてはいけないのが「臭豆腐（チョウドウフ）」。発酵液に豆腐を一晚ほど漬けたもので、揚げたりスープに浸したりアレンジして食べます。独特の臭いがある手をつけられない人も、病みつきになる人もいます。特にスープにしたときの臭いは強烈で、台湾人の私にとっても難易度高めのメニューです。

### 台南で朝食を

台湾を再訪する機会があったら、南部に足を運んでみてください。ちょっとディープな台湾に出会えます。日本からの直行便もある台湾第二の都市、そして私の故郷、高雄が台湾南の玄関口です。地下鉄などの公共交通が発達していて、観光に便利です。高

雄の人は台北に比べて人懐っこく、情に篤いのが特徴で、そんなことから台北を東京に、高雄を大阪に、そしてかつて台湾の首都だった台南を京都に例えることがあります。港町高雄の夜市では海鮮粥など、台北とはまた違った味に出会えるでしょう。

高雄からさらに電車で30分行くと史跡と文化の都市、台南です。そこで一押し朝ごはんが、台南名物「牛肉湯（ニウウロウタン）」です。

その日の朝に食肉加工された新鮮な牛肉をスライスして、レアのまま熱々のスープをかけて食べます。有名店では、朝6時のオープンを待って、夜中の2時からお客さんが並ぶほどの絶品メニューです。

### デザートまでは史跡観光

台南の観光名所、「安平古堡（アンペンクターバオ）」をご紹介します。ここには17世紀に台南を支配したオランダが、貿易と統治の拠点として建設した、「ゼーランジャ城」と呼ばれる西洋風の城塞がありました。後に台湾の英雄、鄭成功が激戦の末に占領しましたが、清による統治が始まると次第に荒廃していきました。現在は古跡として指定され、建物の一部が博物館になっています。

安平古堡を訪れて欲しいもう一つの理由があります。それはすぐ近くに台湾で1、2を争う人気デザート「豆花（トーフア）」の有名店、「同記安平豆花（安平本店）」があるからです。

台北、高雄、台南の旅は心と胃袋が満たされること、間違いなしです。

▼日本でも人気の台湾スイーツ、マンゴーかき氷「冰讚」(左)と豆乳プリン「豆花」(右)



▼台南名物、「牛肉湯」







▲マンガ「食戟のソーマ」にも登場した「胡椒餅」

# Homeland

本学には、100を超える国から、約3千人の留学生が訪れています。  
このコーナーでは、本学の留学生から、出身国の自慢の場所や風景、  
食べ物など、多岐にわたって紹介していただきます。



台湾



ゴ テツイ  
伍 哲緯 さん

所属：生命環境科学研究科（博士後期課程）  
国際地縁技術開発科学専攻 3年  
趣味：オーディオルームで音楽鑑賞

私を弟子にしてください

台湾では大学院修士課程で、高血圧の研究をしていました。高血圧の予防には食生活が深く関わっています。そこで本学で、病気の予防や健康維持に効果のある成分を食品の素材から見出す研究をされている宮崎均先生に、「私を弟子にしてください」とメールを送り、それがきっかけで筑波大学に進学することになりました。

現在は生命環境科学研究科の博士課程で、食機能探査科学研究室に所属しています。食品に含まれるポリフェノールやカテキンなどの成分が血管、とりわけ動脈硬化にどのような影響があるかを研究しています。

賑やかな夜市は、  
台湾人の日常風景

台湾に行ったらぜひとも体験してほしい夜市（ナイトマーケット）と名物料理についてお話ししたいと思います。

昼間は何の変哲もない、ただの通り道として使われている路地が、夕方6時を過ぎた頃から、ずらっと食べ物の屋台が並ぶ「夜市」に変わります。台湾の伝統的な料理から、流行りのものまで、まるでお祭りのようです。台湾中のどこの町にもあって、週3〜4日、場所によっては毎日のように市が立ちます。子どもの頃は親と一緒に、中高生になったら友達と、大学生になったら彼女や彼氏と、結婚したら夫婦で、そして子どもを連れてという具合に、夜市は生涯を通じて生活の一部になっています。

▼「安平古堡」で史跡探訪



▼南台湾の交通の要所、高雄



▼地元の味が楽しめる饒河市場





# TOPICS

## 筑波大学×アンダーアーマー(株式会社ドーム) 包括的パートナーシップ協定を締結



株式会社ドーム代表取締役CEO 安田秀一氏(左)  
永田恭介学長(右)

本学はその前身にあたる東京師範学校時代から、スポーツを通じた人材育成、国民の健康増進、スポーツ文化の醸成を教育の軸のひとつとしてきました。さらには、国立の総合大学としては唯一、体育・スポーツ科学分野の専門教育研究部門を有し、数多くのアスリートや体育・スポーツ指導者を輩出してきました。

一方、米国のスポーツ用品メーカー、アンダーアーマー社はカレッジスポーツを積極的に支援し、実績を上げてきました。そのアンダーアーマーブランドを日本で展開する株式会社ドームは、スポーツを軸に日本の教育を世界基準に変革していく取り組み「アカデミック・インフラストラクチャープロジェクト」を提唱しています。

今回の協定締結は、伝統ある本学の精神と教育研究活動、そして株式会社ドームの野心的な試みを連携させることで、日本のスポーツ文化に新たな風を吹き込むことを目指すものです。

今後両者は、大学スポーツの運営方式に関する共同研究を実施し、スポーツを通じた社会、地域、学生生活の充実活性化、スポーツの産業化等を目指します。

本協定に基づく事業の第一弾として、本学のスポーツエンブレムを新たに策定し、それを冠したアンダーアーマーブランドの新ユニフォームとライセンス商品を開発しました。

協定締結に伴って、11月15日に東京キャンパス文京校舎で開催された発表イベントでは、本学のアメリカンフットボール部、硬式野球部、女子バスケットボール部、男女ハンドボール部、ラグビー部、男女ラクロス部の選手たちが、新ユニフォーム姿を披露しました。



# 「夢を生み出すレム睡眠の意義とメカニズムの解明」が評価 林悠准教授が「つくば奨励賞」若手研究者部門を受賞

国際統合睡眠医科学研究機構の林悠准教授が、「第26回つくば奨励賞」若手研究者部門を受賞しました。この賞は、茨城県内において顕著な研究成果を収め、今後の活躍が期待される40歳以下の研究者に贈られる賞です。11月22日につくば国際会議場で茨城県科学技術振興財団主催の授賞

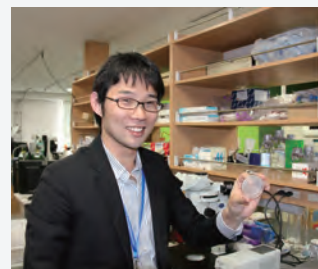


茨城県科学技術振興財団理事  
江崎玲於奈氏(左)、林悠准教授(中央)、  
つくば市長 五十嵐立青氏(右)

式典が開催され、江崎玲於奈賞、つくば賞があわせて表彰されたほか、受賞者らによる記念講演が行われました。

受賞対象となった「夢を生み出すレム睡眠の意義とメカニズムの解明」に関する研究では、レム睡眠とノ

ンレム睡眠の切り替えを司る脳部位および神経細胞を特定し、この部位の働きを操作できる遺伝子改変マウスを作製しました。このマウスを用いた実験で、レム睡眠が学習や記憶形成に関与するデルタ波の発生を促進することを明らかにしました。またアルツハイマー型認知症やパーキンソン病などの神経変性疾患、および自閉症等の発達障害においてレム睡眠の異常が認められることから、こうした疾患におけるレム睡眠の異常とその他の症状との関連を検討することで、発症のメカニズムの理解や治療法の開発につながると期待されています。



## 躍動する人文社会研究 筑波大学人文社会系 研究発信月間

本学人文社会系と人文社会国際比較研究機構(ICR)が中心となり、「筑波大学人文社会系研究発信月間」として10月15日から12月10日の期間に、学会、講演会、ワークショップなど20以上のイベントを開催しました。

11月5日には筑波大学東京キャンパス文京校舎にて、「逆境からイノベーションへ」をテーマにキックオフシンポジウムを開催しました。最初に蒲島郁夫氏(熊本県知事、元筑波大学教授、東京大学名誉教授)より、「逆境の中にこそ夢がある」というテーマで基調講演があり、続いて、児島明佳氏(日本学術振興会研究事業部研究事業課長(兼)研究倫理

推進室長)そしてICR機構長の辻中豊教授の講演が続きました。後半はパネルディスカッションを行い、逆境からイノベーションを起こすにはどうすべきかな



ど活発な議論が行われました。フロアからも質問が止むことはなく、人材育成や社会貢献といった問題についても討論が行われました。

「筑波大学人文社会系研究発信月間」は、社会的要請の高い人文社会系分野の研究成果を広く社会に伝えることを目的として、今後定期的に行ってまいります。

## 第40回秋季スポーツ・デー



11月12日、13日に、第40回秋季スポーツ・デーが開催されました。

スポーツ・デーは、学生組織であるスポーツ・デー学生

委員会が企画から準備・運営までを行い、春季と秋季の年2回、各2日間の日程で開催しているものです。屋内外で

行われ、毎年多くの学生・教職員がスポーツを楽しむ、本学ならではの学内行事です。



サッカーやバレーボール等の正式種目以外にも、体育会所属の団体が企画する「サークル企画」や、身体が不自由な方や体力に自信がない方でも楽しめる「アダプテッドスポーツ」、また、吹き矢等のユニークな体験ができる「学生委員会企画」も行われ、魅力的なイベントが盛りだくさんの2日間でした。

秋晴れの空の下、延べ1万人以上の参加者が、さまざまな競技でさわやかな汗を流しました。



# TOPICS

## 大学日本一、男子バスケットボール部 インカレ3連覇!!

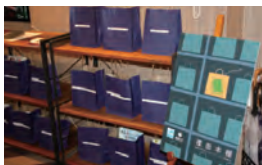
大学バスケットボールの日本一決定戦「第68回全日本大学バスケットボール選手権大会」(通称インカレ)で、本学男子チームが東海大学を破り、3年連続4回目の優勝を飾りました。さらに、最優秀選手賞・得点王に体育専門学群3年の杉浦佑成さん、優秀選手賞に体育専門学群4年の生原秀将さん、同じく3年の馬場雄大さん(左写真)が選ばれました。

今年は、春の関東大学バスケットボール選手権、秋の関東大学リーグも制覇。3冠を達成し、その強さが際立ちました。



### 覆面本棚 (10/28~)

筑波大学出版会より出版されている本を、紙袋に入れて(覆面をして)展示しています。本の表紙も題名も分からないこの本棚から、どのように本を選べば良いかは、紙袋に記されているキャッチコピーがヒントとなっています。気になるキャッチコピーが見つかったら、サテライトオフィス内でその本を読むこともできます。科学や哲学、スポーツから芸術まで様々なジャンルの本が入っています。お気に入りの一冊を探しにぜひご来館ください。



### クリスマスツリーの飾り付け (11/18~12/25)

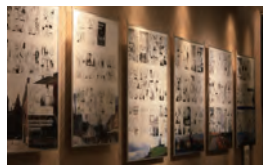
来館された方に、折り紙や紙テープを使って、クリスマスツリーのオーナメントを作っていただきました。それらを飾り付けて完成です。おかげさまで、素敵なツリーができあがりました。



### 横井三歩

#### 『新解 ヴェニス商人』展 (11/15~11/21)

本学比較文化学類の卒業生で、漫画家として活動されている横井三歩さんが、グラフィック・シェイクスピア・コンペティションにおいて特別賞を受賞した作品『新解 ヴェニス商人』の展示が行われました。世界的な大会の受賞作となったこの作品は、シェイクスピアの原作を大胆に読み替えたもので、独特の世界観に多くの来場者の方々が目を奪われていました。



筑波大学サテライトオフィスは学生・教職員の皆さまのご利用をお待ちしております。イベントを行いたい方は、一度サテライトオフィスまでお越しください。また、Twitterでもイベント情報などをお伝えしています。 [@tsukuba\\_sat](https://twitter.com/tsukuba_sat)



# 受賞

## Awards and Prizes

### 教職員

受賞名	受賞者	所属
2016年度情報処理学会山下記念研究賞	川島英之 准教授	計算科学研究センター
2016年度日本液晶学会業績賞	齋藤一弥 教授	数理解物質系
日本体育・スポーツ哲学学会賞	内山治樹 教授	体育系
平成28年度錯体化学会賞	大塩寛紀 教授	数理解物質系
独立行政法人日本学術振興会 平成27年度特別研究員等審査会 専門委員(書面担当)及び国際事業委員会書面審査員の表彰	相川充 教授	人間系
	初貝安弘 教授	数理解物質系、学際物質科学研究センター
	森田昌彦 教授	システム情報系
	松田学 講師	医学医療系
Thomas Hawksley Gold Medal	藪野浩司 教授	システム情報系
John F Alcock Memorial Prize 2015	関口章 教授	数理解物質系、学際物質科学研究センター
第7回(平成28年)ケイ素化学協会賞	山崎正志 教授	医学医療系
独立行政法人日本学術振興会 平成28年度科学研究費助成事業審査委員表彰	篠塚友一 教授	人文社会系
	中田和人 教授	生命環境系
	松本浩一 教授	図書館情報メディア系
	田中佐代子 准教授	芸術系
日本雪氷学会・論文賞	上野健一 准教授	生命環境系
地理情報システム学会 平成28年度学会賞(学術論文部門)	鈴木勉 教授	システム情報系
平成28年度茨城県医師会勤務医部会学術奨励賞褒賞	石川栄一 教授	医学医療系
アメリカ教育学会賞	星野真澄 特任助教	人間系
2016年度日本気象学会正野賞	松枝未遠 助教	計算科学研究センター

### 学生・大学院生

受賞名	受賞者(所属・学年)	指導教員
2016生態工学会年次大会 講演論文賞	井上琴美 (生命環境科学研究科 生物資源科学専攻 博士前期2年)	横谷(富田)香織 講師(生命環境系)
第62回日本宇宙航空環境医学大会・ 日本宇宙生物学会第30回大会合同大会 大会アワード		
11th Asian Microgravity Symposium-2016 Outstanding Poster Award		
公益信託エスベック地球環境研究・技術基金 エスベック環境研究奨励賞	加藤木ひとみ (生命環境科学研究科 生物資源科学専攻 博士前期1年)	
第62回日本宇宙航空環境医学大会・ 日本宇宙生物学会第30回大会(合同開催) 日本宇宙生物学会奨励賞	木村駿太 (生命環境科学研究科 生物機能科学専攻 博士後期1年)	
The 8th Korea-Japan Workshop on Advanced Diagnostics for Steady-State Fusion Plasmas, The 8th Japan-Korea Workshop best poster AWARD	イスラム エムディ シヤヒヌル (数理解物質科学研究科 物理学専攻 博士後期2年)	中嶋洋輔 教授(数理解物質系、プラズマ研究センター)
錯体化学会第66回討論会学生講演賞	下山祥弘 (数理解物質科学研究科 化学専攻 博士後期1年)	小島隆彦 教授(数理解物質系)
情報処理学会2016年度コンピュータサイエンス領域 奨励賞	野沢健人 (図書館情報メディア研究科 図書館情報メディア専攻 博士前期1年)	手塚太郎 准教授(図書館情報メディア系、 知的コミュニティ基盤研究センター) 若林啓 助教(図書館情報メディア系)
WebDB Forum 2016 学生奨励賞	長尾悠真 (図書館情報メディア研究科 図書館情報メディア専攻 博士前期1年)	鈴木伸崇 准教授(図書館情報メディア系)
第41回(2016年秋季)応用物理学会講演奨励賞	高部涼太 (数理解物質科学研究科 ナノサイエンス・ ナノテクノロジー専攻 博士後期2年)	末益崇 教授(数理解物質系) 都甲薫 助教(数理解物質系)
日本物理学会2016年秋季大会 領域2学生優秀発表賞	隅田脩平 (数理解物質科学研究科 物理学専攻 博士後期1年)	井手俊介 教授(数理解物質系、連携大学院)
アーティストック・ムーブメント・イン・トヤマ2016 松本千代栄賞(最高位)および審査員賞	筑波大学ダンス部	寺山由美 准教授(体育系) 平山素子 准教授(体育系)
The 13th China-Japan Symposium on Materials for Advanced Energy Systems and Fission and Fusion Engineering, Institute of Nuclear Energy Safety Technology Outstanding Poster Award	田中裕樹 (数理解物質科学研究科 物理学専攻 博士前期2年)	坂本瑞樹 教授(数理解物質系、プラズマ研究センター)
日本語学会第152回大会 発表賞	柴田香奈子 (人文社会科学研究科 文芸・言語専攻 一貫制博士5年)	伊藤眞 教授(副学長、人文社会系)
平成28年度地域安全学会論文奨励賞	田中皓介 (システム情報工学研究科 リスク工学専攻 博士前期1年)	梅本通孝 准教授(システム情報系)
平成28年度地域安全学会優秀発表賞	渡木孝行 (システム情報工学研究科 リスク工学専攻 博士修了)	糸井川栄一 教授(システム情報系)
地理情報システム学会第12回大会優秀発表賞	鈴木雄太 (システム情報工学研究科 リスク工学専攻 博士前期1年)	
第75回日本公衆衛生学会総会ポスター賞	安達修平 (システム情報工学研究科 リスク工学専攻 博士前期2年)	鈴木勉 教授(システム情報系)
	金雪瑩 (人間総合科学研究科 ヒューマンケア科学専攻 3年制博士2年)	田宮菜奈子 教授(医学医療系)
三田図書館・情報学会2016年度研究大会 ベストプレゼンテーション賞	小竹理奈 (医学群医学類3年)	
	松山麻珠 (図書館情報メディア研究科 図書館情報メディア専攻 博士前期2年)	池内淳 准教授(図書館情報メディア系、 知的コミュニティ基盤研究センター)

※所属・職名・学年は受賞時



## 第42回学園祭「雙峰(そうほう)祭」

11月4から6日、第42回筑波大学学園祭「雙峰祭」が開催され、4日の前夜祭において、紫峰会基金より運営資金として援助金100万円が、玉川信一副学長から矢作祐士学園祭実行委員長に贈呈されました。近年では珍しく3日間とも快晴に恵まれ、学生だけでなく保護者や本学の卒業生、近隣の住民など、多くの来場者で賑わいました。

雙峰祭の期間中、サークルや学類の有志などが模擬店を出店したり、学内各所でステージ発表を行ったりしました。模擬店では、学生の地元の郷土料理や、留学生が手作りの世界各国の料理を味わうことができました。また、ステージでは、マジックや楽器演奏のライブ、ダンスなど、熱のこもったパフォーマンスが披露されました。他にも、本学の教員による模擬授業や研究室の研究発表など、普段はなかなか目にする事ができない筑波大学の研究教育を体験する貴重な機会になりました。

6日の後夜祭は複数団体によるコラボステージで始まり、ミス・ミスターキャンパスを決めるTSUKUBA COLLECTIONやお笑いライブが行われました。フィナーレには花火が打ち上げられ、雙峰祭は盛況のうちに幕を閉じました。



## 筑波大学校友会

### 第19回(平成28年度)ホームカミングデーを開催

「雙峰祭」期間中の11月6日に、大学会館レストランブラザにおいて第19回(平成28年度)筑波大学ホームカミングデーを開催しました。今年は、平成4年度入学の学群卒業生、平成8年度入学の大学院修士に加え、それぞれのご家族、当時教鞭をとられていた退職教員を招待しました。本学関係者と合わせ350名を超える方々が一堂に集い、大盛況となりました。

開催にあたって、西川潔一般社団法人茗溪会副理事長(筑波大学名誉教授)より、同会からの寄附金目録(50万円)が永田恭介学長に手渡され、来賓としての祝辞をいただきました。歓談の間には、卒業生・修士を代表して、堀越勇介さん(体育専門学群卒業)と加藤千尋さん(第二学群生物学類卒業、生物科学研究科生物学専攻修了)から、当時のエピソードを交えた挨拶をいただくと、あちこちで、当時の思い出話に花が咲きました。つかの間の交流会ではありましたが、参加された皆様にとって大変有意義なひとときとなったようです。





## 茗溪会賞顕彰式

今年度も筑波大学の学生の団体を含む10組の個人・団体に茗溪会賞を贈り、社会貢献活動の功労を顕彰しました。顕彰式は、11月26日に、来賓に稲垣敏之副学長を迎えて大学会館で行われました。いずれの方々も、それぞれの分野で貴重な活動をされており、式後の祝賀会ではお互いのお話に聞き入っていました。また、前掛け専門販売会社ユニシングの西村和弘様と芳賀織布工場の福田和真様から、江田昌佑茗溪会理事長に、桐の葉を染め抜いた前掛けが贈られました。



### ●平成28年度茗溪会賞受賞者

	名称・氏名	活動	地域
団体	フレンドリーDOG & CAT	福祉施設等で動物とのふれあい活動	川口市
	大森学園高等学校 車いすメンテナンスグループ	老人ホームの車いすを修理し、中古の車いすを再生して海外に贈る活動	大田区
	NPO法人シオヤレクリエーションクラブ	障がい者も健常者と一緒に「かけっこを楽しむ」陸上教室	千葉市
	前掛け専門販売会社ユニシング	伝統の前掛け織をつなぐ	小金井市
	前掛け製造芳賀織布工場		豊橋市
	<T-ACT企画>筑波大学将棋部	将棋を通じて放課後の居場所づくりや交流を図る	つくば市
	萩原チンドン祭り実行委員会	50回続く「全国チンドン祭り」を継承	一宮市
個人	懸田弘訓	福島県で民俗芸能を存続させる活動を続ける	郡山市
	前田敏康	被災地の避難所に畳を届ける	神戸市
	蒲池卓巳	全国の地芝居を盛り上げるお坊さん	名古屋市
	三浦一憲	音楽のつながりを地域づくりに	つくば市

## 教職受験支援

筑波大学の教員志望学生のために、「教職受験対策研修会」を毎年3月初旬に実施しています。教育界において実績ある講師陣は、全員が同窓。いわば大先輩が、若い後輩の夢の実現を願って、直接に応援する貴重な機会です。大学就職課でもガイダンスや試験対策講座を実施していますが、教員志望者にはそれぞれの都合に応じて、これらの機会を利用することをお薦めしています。なお、当研修会の実施要項は以下の通りです。

- ▶期日：2017年3月6日（月）～8日（水）▶場所：筑波研修センター▶参加費：2,000円（実費7,000円のうち5,000円を茗溪会が助成します）▶定員：50名▶申込受付：2月1日～28日（筑波研修センター）
- ▶問合せ先：茗溪会筑波事務所（029-850-1044 tsu3jimu@meikei.or.jp）

茗溪会は、筑波大学の学生活動に対する助成や卒業祝賀会などに、毎年総額約800万円の支援を行っています。また、140年余の歴史を有する本会は、現在活動している日本最古の同窓会です。会員数はおよそ5万人で、  
①会員の交流と互助 ②筑波大学の支援 ③社会貢献 を目的としています。  
年齢や専門、職種を超えた同窓の集まりは全国に、さらには海外にも組織を有しています。



## 01

芸術系准教授

佐伯 いく代 さん

カタツムリ(マイマイ)を飼っています。手のひらにのるぐらいの小ささで、ゆっくり動き、都合が悪いことがあると殻にひきこもってしまう・・・「まいまい」という響きには、何だか心を落ち着かせてくれるような温かさがあります。わたしの部屋には今、50匹ほどのマイマイたちがいます。幸い、ほとんどの子たちが元気でやってくれていて、ときどきサイエンスイベントに出演してくれたりもします。ところでみなさんは木登りをするカタツムリがいるのをご存じですか？夏、雨がたくさん降っている日に、大学公園のバス停近くの街路樹をよく見てみてください。愛らしいマイマイがくっついてい



NEXT

今回は、学術情報部情報企画課の寺本しほりさんです。「私は所属で図書委員をしているのですが、雑誌や書籍の購入について、いつも助けていただいています」

## 02

グローバル・commons機構

小田 キャサリン ヴィヴァル さん

海外のテレビ番組を見るのが好きで、ドラマ、サスペンス、コメディ、サイエンスフィクションなどジャンルを問わず見えています。最近の仕事、家事、子育てと、なかなか放送時間に合わせてテレビを見ることができませんが、番組がひとまとめで放送・配信されるようになり、好きな時に好きなだけ番組を見ることができる便利な時代になりました。連続的に鑑賞してやめられない状態を指す「ビング・ウォッチング (binge-watching)」という新語もできましたが、私は通勤電車の中、就寝前などちょっとした時間を見つけては、毎日プチ・ビング・ウォッチング(笑)を楽しんでいます。



NEXT

今回は、教育推進部教育推進課の飯田友紀さんです。「私が担当する大学内の英会話研修会参加者の一人で、いつも明るく親切なお癒し系女性です」



## ツクバでツナがるリレ→エッセイ



## 05

人文社会系准教授

海後 宗男 さん

日暮れが早まり、秋から冬の空気にかわってくると、ふと過去のクリスマス思い出す——幼い頃のこの時期の高揚した気分、ツリーの飾りつけをしたこと、クリスマスのミサ、友人とのパーティ。昔のことを考えていると不思議と落ち着く。子どもの頃の楽しい「クリスマス」があってこそ、大人になってもその言葉が心を癒すのかもしれない。ためいきがでるほど華やかな電飾や豪華なパーティも良いが、



あたたかいクリスマスを過ごすことには特別な感動がある。今年の冬は、この絵本のような、静かであたたかい「ホワイトクリスマス」を心に置いて過ごしたい。

NEXT

今回は、広報室教授の福原直樹さんです。「南・西ヨーロッパの文化や生活に関する勉強会を年数回行っています。学生から大変尊敬されている先生です」

## 06

教育推進部教育推進課

篠原 美智子 さん

好きな本の一冊に原田康子の「挽歌」がある。小学生の頃、母の本棚からこっそり抜き取って読みふけたもの。「アミ」も「コキユ」もわかるはずもなく。それでも桂木さん、怜子、ママンのそれぞれの想いに心が震えた。その頃から私のそばにはいつも本がある。私の原点は母である。読書も、映画も、旅行も、スポーツも、着道楽も母が教えてくれた。凜として、筋を通す母の背中を私はずっと追ってきた。いつかそんな背中を子ども達にも見せたいと……。ほぼ子育ても終わった今、息子は「自立したマザコン」に育てあげたし、娘とは「友達親子」。私の子育ては合格点かもしれない。お母さん、どうですか。



NEXT

今回は、人間系准教授の飯田浩之さんです。「30年以上前から、言いたい放題言わせてもらってます。寛大さごたわりを持ち備えたナイスガイです」



# 03

医学医療系講師  
大原 玲奈 さん



今年度私が子供たちともにはまったこと、それはザリガニ釣りです。小さいころに近所の沼で大量にザリガニを釣った以来、●十年ぶりに子供たちとゆかりの森およびその周辺の田んぼの用水路でザリガニを釣りました。釣り竿にする棒は森の中で拾い、タコ糸とスルメを用意して、いざ開始すると釣れるは釣れる、みんなお腹がとてもすいているのだろうか？それとも捕食対象にとびつくザリガニの悲しい性でしょうか？1時間程度で30匹も釣れて、みんなで大喜びしました。怖いもの知らずの次男は、ザリガニがたくさん入ったバケツに手を入れてザリガニを触っていたときに指を挟まれてしまい、大泣きしていました。2017年も充実した日々が過ごせることを祈りつつ、次の方へエッセイをつなぎたいと思います。

## NEXT

今回は、附属病院看護部の荒井志保さんです。「大学時代の部活の先輩でとっても気さくな人柄なので、廊下で見かけると用も無いのについ声をかけてしまいます」

# 04

生命環境系アイソトープ環境動態研究センター准教授  
古川 純 さん



ここ数年、家の近くの農園に区画を借りて週末土いじりにはまっています。畑仕事を通じて地域のコミュニティに参加したいという気持ちもあるのですが、一番の魅力は自分で育てた野菜の美味しさです。スーパーに並んでいるようなきれいな野菜とは違って不格好だったり虫がついたりしていても、一口食べるとその味の濃さに驚きます。また、畑仕事で汗を流した後に仲間たちと飲むビールは格別です。夏は炎天下、冬は寒風吹きすさぶ中での作業になりますが、その苦勞も吹き飛んでしまいます！（むしろこっちが一番の理由かも？）

## NEXT

今回は、数理物質系講師の関場大一郎さんです。「一緒に田植えを楽しんだ関場先生です。食べたり飲んだり、お米には幅広い興味をお持ちのようです」



**5000人を超す教職員がいる本学。**  
**その中で生まれた人と人とのつながりを、8本のバトンが渡っていきます。**



# 07

学術情報部アカデミックサポート課  
塩澤 美咲 さん

大学2年時の留学をきっかけに、毎年海外旅行へ行くようになりました。特に自由気ままな一人旅が好きで、これまでに訪れた国は20カ国以上。日常を忘れ、その国の文化や自然に触れることが、何より楽しい今日この頃です。最近ではエスニック料理にはまり、タイやベトナム等の東南アジアに行くことが多くなりました。アジアは物価が安いのもまた魅力です。逆に、海外に行ってみて初めて日本の良さに気付く時もあります。清潔な街並、そのまま飲める水道水、運行時刻通りの電車、そして治安。「やっぱり日本が一番！」と実感する為に、私は海外旅行へ行くのかも知れません。



## NEXT

今回は、病院総務部経営戦略課の渡辺瑞紀さんです。「毎週末一緒にバレーボールの練習をしています。いつも元気で、エネルギーに満ち溢れている方です」

# 08

体育系教授  
菊 幸一 さん

今、はやりの「イクメン」ならぬ「育麵」男です。小学校入学前後から両親が共働きだったためか、4歳上の兄と二人で包丁を握り、ネギやその他の具材を用意して、インスタントラーメンから始まり、うどん、蕎麦、パスタといった麺類を調理してきて以来、およそ半世紀余（年齢がバレバレ）。特に、かつて宇高連絡船で食べた讃岐うどんの味が忘れられず、群馬（伊香保）の水沢、秋田の稲庭、富山の氷見…とうどんへのこだわりは半端ありません。九州大学在職中は、博多のうどんにもはまっていました。その究極の美味を求めてかけ汁（つけ汁）にも工夫を凝らしていますが、けだし、育麵の道は険しいのです。



## NEXT

今回は、附属高等学校教諭の中塚義実さんです。「体育社会学研究室の後輩で、都内に高校サッカーリーグを新設するなど、サッカーへの情熱は人一倍です」

※所属・職名は2016年10月現在



## ■ 新聞記事一覧

	記事内容	掲載本学関係者	掲載紙(掲載日)
1	本学とブラジル・サンパウロのサンタクルス病院は、9月19日に連携協定を締結	永田恭介学長	常陽(9.22)
2	本学附属病院は、9月30日より脳卒中でまひの後遺症がある患者を対象に、医療用ロボットスーツ「HAL単脚モデル」の治験を開始	附属病院 サイバードイン(株)(大学発ベンチャー)	毎日、読売、東京、茨城(10.1) 日経(10.3)夕 常陽(10.4) 日刊工業(10.6)
3	ブラジルのサンタクルス病院との連携協定を記念し、ブラジル・アリアンサ産「アリアンサエスレート コーヒー」をサザコーヒーと共同で開発。パッケージデザインは本学の原忠信准教授が手がけた	原忠信准教授(芸術系)	茨城(10.1) 常陽(10.3) 読売(10.10) 毎日(10.12)
4	柔道:全日本学生体重別選手権で、本学柔道部の田川兼三さんが男子66 <sup>+</sup> 級、竹内信康さんが男子73 <sup>+</sup> 級で優勝、津金恵さんが女子63 <sup>+</sup> 級で優勝	竹内信康(体専4年) 津金恵(体専3年) 田川兼三(体専2年)	朝日、毎日、読売、茨城(10.2)
5	2014年よりスーパーグローバルハイスクールに指定された附属坂戸高および附属高は、中間評価で「目標の達成が可能」と評価された	附属坂戸高 附属高	読売(10.13)
6	CS放送フジテレビ ONE TWO NEXT 主催の高校生を対象とした脚本コンテスト「ドラマ甲子園」で、附属駒場高校3年の佐藤孝樹さんの脚本「変身」が大賞を受賞し、本人の演出でドラマ化。10月19日にメイキングと共に放映された	佐藤孝樹(附属駒場高校3年)	産経(10.15)
7	国際産学連携本部の大津巖生准教授は、従来よりも正確に硫黄化合物を識別できる技術を開発し、パイオベンチャーのちとせ研究所が食品メーカー向けサービスとして事業化	大津巖生准教授(国際産学連携本部)	日経産業(10.17)
8	国際オリンピック委員会会長のトーマス・バハハ氏が本学から名誉博士号を授与され、東京キャンパスにて記念講演を行った	東京キャンパス	産経(10.21)
9	附属病院が開院40周年を迎えたことを記念して式典を開催。40周年記念事業として基金を設立し、将来的に講堂を整備する	松村明教授(医学医療系 附属病院長)	毎日、常陽(11.4)
10	本学の船戸弘正教授と柳沢正史教授らの研究グループは、睡眠と覚醒を制御する重要な役割を果たす2つの遺伝子を発見した	柳沢正史教授(国際統合睡眠医科学研究機構長) 船戸弘正客員准教授(国際統合睡眠医科学研究機構)	読売(11.6) 日経(11.7)
11	自立型ロボットが公道走行する実証実験、「つくばチャレンジ」で58台中12台のロボットがゴール。うち本学知能ロボット研究室の開発ロボットが唯一全課題をクリアした	本地正弥(システム情報系 博士前期1年)	常陽(11.8)
12	国際宇宙ステーション(ISS)に物資を届けるH2Bロケット6号機に本学人工衛星開発プロジェクトが開発した超小型衛星「ITF-2(結2号)」が搭載され、12月9日に打ち上げ、今年度中に地球軌道に放出される予定	亀田敏弘准教授(システム情報系) 永田晃大(エシス4年)	朝日(11.13) 茨城(11.28) 常陽(12.7)(12.11) 茨城(12.10)(12.11)
13	来年の柔道世界選手権1次予選を兼ねた講道館杯全日本柔道体重別選手権大会で、女子63 <sup>+</sup> 級において、本学生の能智亜衣美さんが優勝した	能智亜衣美(体専3年)	毎日、日経(11.14)夕 朝日、東京(11.15)
14	本学と東大が共同運用するスーパーコンピュータ「オークフォレスト・ボックス」が計算速度の世界ランキングで6位に入り、国内トップとなった	計算科学研究センター	産経(11.15) 日経、読売、産経、毎日(12.2)
15	本学と米国アンダーアーマー日本代理店のドームは、スポーツの産業化や健康増進、人材の育成に資することを目的として、包括的パートナーシップに関する協定を締結した		茨城、産経、サンケイスポーツ、スポーツニッポン、日刊工業(11.16) 常陽(11.19)
16	山口大学大学院北川孝雄助教、本学入江賢治教授らの研究グループは、創薬に利用する組換えたんぱく質の生産能力を高める遺伝子を特定した	入江賢児教授(医学医療系)	日経産業(11.24)
17	バスケットボール:第68回全日本大学選手権で本学男子バスケットボール部が3年連続4度目の優勝を果たした。最優秀選手は今大会で114得点を挙げた本学3年の杉浦佑成さんが選ばれた	吉田健司准教授(体育系) 生原秀将(体専4年) 杉浦佑成(体専3年) 馬場雄大(体専3年) 増田啓介(体専1年)	朝日、茨城、東京(11.28)
18	2016年の毎日スポーツ人賞のベストアスリート賞、および第1回日本バラスポーツ賞(読売新聞社制定)の大賞に、パラ競泳選手で附属視覚特別支援学校OBの木村敬一さんが選ばれた	木村敬一(附属視覚特別支援学校OB 東京ガス)	毎日、読売(12.8) 毎日(12.13)
19	国際統合睡眠医科学研究機構のミハエル・ラザルス准教授らの研究グループは、寝不足で甘いものが欲しくなる原因の一端が、「前頭前皮質」の動きにあることをマウスの実験から見出した	ミハエル・ラザルス准教授(国際統合睡眠医科学研究機構研究部門)	日経(12.11)
20	カナダのウィンザーで開催された世界短水路選手権で本学大学院2年の金子雅紀さんが、男子200 <sup>+</sup> m背泳ぎで銅メダルを獲得した	金子雅紀(人間総合科学研究科体育学専攻2年)	日本(12.12)

## ■ テレビ放送一覧

	内容	出演本学関係者	放送局・番組(放送日)
1	バクチャー特集 バクチャーのニオイ成分が体内の化学物質を解毒・排泄する効果について解説します	熊谷嘉人教授(医学医療系) 安孫子ユミ助教(医学医療系)	NHK総合 あさイチ(10.17)
2	身近な現象でありながら、詳しい仕組みが未だ多くの謎に包まれている「睡眠」。この大きな謎に正面から挑む研究者たちにクローズアップします。つくばに誕生した世界随一の睡眠研究所を30分にわたりご紹介。柳沢教授をはじめ、IISの研究員が多数登場します	柳沢正史教授(国際統合睡眠医科学研究機構長)	BSジャパン 未来EYES ミライアイズ(10.23)

### ■訂正:

前号Vol.33のMedia Appearancesの記事の一部誤りがありました。正しくは以下のとおりです。  
 村上聡梧さん 附属駒場高校3年 第57回国際数学五輪 銀メダル  
 青木孔さん 附属駒場高校3年 第57回国際数学五輪 銀メダル  
 川崎理玖さん 附属駒場高校2年 第28回国際情報五輪 銀メダル  
 佐藤剛さん 附属高校 3年 第13回国際地理五輪 銅メダル



# Event Calendar

## 1 January

- 10日 (火) Cosmos Café (17, 24, 31日)
- 11日 (水) Cosmos Chat (18, 25日)
- 12日 (木) GC Chat in English (19, 23, 26, 30日)
- 14日 (土) 大学入試センター試験 (~15日)
- 15日 (日) City Chat Café (LALAガーデンつくば)
- 18日 (水) 第1回 アカデミック・ライティング・ワークショップ
- 20日 (金) 第2回 アカデミック・ライティング・ワークショップ  
GC Chat in Japanese (24, 27, 31日)
- 23日 (月) 数理物質融合科学センターワークショップ (~24日)

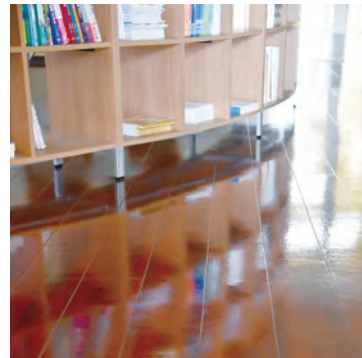
## 2 February

- 1日 (水) Cosmos Chat
- 9日 (木) 秋ABCモジュール期末試験 (~15日)
- 15日 (水) 秋学期授業終了
- 16日 (木) 期末試験予備日
- 17日 (金) 春季休業 (~3/31)
- 19日 (日) City Chat Café (LALAガーデンつくば)
- 20日 (月) 2016 BEST FACULTY MEMBER 表彰式  
入学試験「学群英語コース」(~3/10)
- 25日 (土) 入学試験「前期/私費外国人/編入(社会)」(~26日)

## 3 March

- 7日 (火) 合格発表「前期/私費外国人/編入(社会)」
- 10日 (金) TIMS-CENIDE-CNMM Joint Symposium 2017 (~11日)
- 12日 (日) 入学試験「後期」  
City Chat Café (LALAガーデンつくば)
- 20日 (月) 合格発表「後期」
- 23日 (木) 合格発表「学群英語コース」  
平成28年度下半期つくばアクションプロジェクト活動報告会
- 24日 (金) 卒業式  
大学院学位記授与式
- 28日 (火) 春の進学説明会 (~30日) (東京キャンパス文京校舎)
- 31日 (金) 学年終了





TSUKUBA COMMUNICATIONS (筑波大学広報誌) Vol. 34  
平成29年1月発行 編集・発行：筑波大学広報室  
〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1  
電話：029-853-2063 E-mail：kohositu@un.tsukuba.ac.jp  
URL：http://www.tsukuba.ac.jp/

©2017 筑波大学 (本紙記事の無断転載を禁じます)